

故あって結ばれず、思いを残しつつ別れた相手を今、遠く離れた異郷で思う相手への慕情。望郷の思いと重なる男の奥深い心の内に住む一輪の花、優しかった、美しかった、あの日の君と過ごした楽しかった日々。

心のスクリーンに繰り返し繰り返し甦る忘れえぬ思い出。断ち切れぬ熱い思いと男の胸に沸々とたぎる恋情。

そんな愛しい人に幸せを遣れずに残る悔恨。その面影を偲びつつその激しい恋心を歌います。

～あの日の君に～歌いだしはアフタクトで入ります。4分の4拍子で書かれたこの曲の入りは初めの小節の4拍目から歌いだします。いわゆる弱起と言う音楽用語のスタイルです。

そしてこの曲の全体メロディの中の最低音から入ります。

男の相手への深い思いと二人の愛の長い時間の経過を表して居ます。

ブレイク気味に入りますので言葉の切れ味を明確に！ブレイクとはバックの演奏が休む事です。

基本的に歌謡曲はインテンポで演奏されるのが殆んどですが、全体のサウンドの味付けや

その言葉やメロディを強調したい時にこの手法が用いられます。

従って大事な部分です。

歌いだしはどの歌を歌う時も大事なものですがこの歌は特にこの部分が大事です。

心の一番奥底にある想いを引き出すように身体を中心からずっしりと出す感じで

言うなればザックリと！

～逢えるなら～は歌いだしの強い思いに対して仮定の願望に答えるように。明るく甘めの歌声で。

～命を惜しむ俺じゃない～ここは強い表現です。命を捨ててもいいという熱い気持ちです。

言葉の突き方は命のい、惜しむのお、ないのな、この3つの音を言葉と共にしっかりと突きます。

3行目は～くちなし句う～花陰で～ここは1、2行目の心の内の表現から転化して

情景描写になります。

ここから中サビになりますから、この歌の中の華やかに歌い上げる部分になります。

ここでプレスに気をつけて下さい。深めに息を吸いくちなしのくをしっかりと、なしを弾む感じで、ナッシィという風に！

句うはうの部分でたっぷりとバイブレーションを深く掛けて。その響きが揺れる様なイメージで！

くちなしの甘い香りが辺りに広がり伝播していくような感じです。

～花陰で～は感情が盛り上がる部分です。

情景的に今その時を振り返って見れば二人の愛のドラマがクライマックスを迎えた時です。

花のは、は胸声を使って！文字通り胸に響かせる声です。

なは明るい響きで空に向かって歌うように！

～陰で～はたっぷりと声を伸ばして声を大きく出してバイブレーションも掛けて、

声を前に出し気持ちを十分に乗せる感じで！

先に出てきた～句い～とは好対照のバイブレーションで！

因みにくちなしの花言葉は”私は幸せ”そんな意味合いがあるそうなのでそんな思いをぶつける感じで。

しかし幸せはいつまでも続かず別れの告白の場面です。一転して～泣いて別れた遠い町～万感の思いを込めて歌います。

むしろ強く語ると言った感じです。リズムにしっかりと乗って！このリズムに乗れないとこの歌の生命線が崩れます。

と言うのは次の～結ばれなかった女ゆえに～このフレーズがすぐ迫って来ます。

普通大サビの～遠い町～を歌い切った所で1小節ぐらいの長さがあるものですが、

ここ～遠い町～の後では休符はありません。

半拍でプレスをして歌いますがここは特に深くプレスを取りましょう。

この歌の最低音が歌いだしと同じ～結ばれ～の入りの音です。

最高音や最低音の前にはセオリーですが、プレスを特に深く！

～偲ぶ～偲ばず～真反対の感情が続きます。勿論逡巡する気持ちを歌います。

このまま思い続けようかそれとも諦めようか、

この歌は長調の明るい曲調で書かれています。～偲ぶ～は明るい歌声で今この歌を

聞いて頂いている目の前の人々に問いかけるように、

～偲ばず～は遠くにいる人にもハッキリとその思いが届くように！そんな気持ちで！

～面影しぐれ～の面影は愛しい君。

そしてしぐれは文字通り雨や雪が止んだり降ったりする様です。

そんな心の内を優しく温かく歌い上げます。全体のイメージとしては明るく温かいサウンドに身を委ねて軽くステップを踏む位の感じで歌われるのがいいと思います。

